

集合住宅におけるサロン活動から見てきた住民の意識

「おもちゃと電気のお医者さん」の事例から

日本福祉大学 茂 大祐 (6694)

キーワード：おもちゃと電気のお医者さん サロン活動 多世代交流

1, 研究目的

A集合住宅は、住民に対するサロン活動を開催している。開催するきっかけとなったこととして、高齢化による閉じこもりの防止や高齢者同士の関係構築が基本にあった。しかし、現在では多世代交流も一つの目的となっている。花壇づくり、デジカメ教室、水彩画講座など、様々な活動が行われ、参加者からも充実した時間を過ごせたという回答をもらっている。また、保健所など外部の機関からの援助もいただきながら、活動を実施している。これらの活動が、地域に対しても参考事例としてよい影響をあたえ始めている。

これらの活動を行う中で、高齢者、子どもなど、様々な面での交流について進んでいるが、一部の決まった参加者が中心の活動となっているのが実情である。そのため、サロン活動へ新規の参加者がより敬遠してしまうという状況もある。

そこで、サロン活動へ新規の住民の方を取り込むためには、どのような方法や課題があるのかを明らかにする必要がある。

2, 研究の視点および方法

これまで、高齢者や子ども対象となるサロン活動が行われてきた。そこで、かかわりを充実させていくためには、多くの世代との交流について考えていくことが必要である。また、様々な人たちとの交流による刺激も重要なものとなってくる。そこで、本研究では、新規で参加してもらうためにはどのような方法などがあるかを調査し、検証するものとする。

本研究では、多世代交流がサロン活動の中でも活発な「おもちゃと電気のお医者さん」を調査対象とする。「おもちゃと電気のお医者さん」は、A集合住宅の住民の方がボランティアで活動を行っている。おもちゃ、電化製品、(PCや電子ゲーム等、精密なものは除く)家電について、修理をおこなっている。対象は、A集合住宅全住民である。そこで、ここでは次の2点について明らかにしていくものとする。おもちゃと電気のお医者さんにおいて、参加者の心境の変化あったか。サロン活動からみて、おもちゃと電気のお医者さんは、交流の機会になるか。以上の2点について明らかにしていくものとする。

調査方法としては、サロン活動を中心に動かしている自治会の方、住民の方に対して、インタビューを中心に行う。また、参加されている方々に、参加しての感想や要望などについてインタビュー調査を行う。

3, 倫理的配慮

本研究について、調査対象となる集合住宅の自治会に承諾、許可を得ている。また、個人情報等に関しては、十分に配慮を行っている。

4, 研究結果

本活動は、月に 1-2 回、3 年以上継続的に行われている。集会場の一部を利用し、午後の時間で行われている。修理の流れとして、次のように進められる。住民の方が自宅で故障している電化製品やおもちゃを持参する。故障したものをみたのちに、修理を行う。部品や時間がかかる場合には、預かりという形をとり、修理を行う。修理の時間、自治会の方やその他の住民の方とお話をしながら直るのを待つ。修理を終えたら、部品代のみを支払う。以上のような流れで活動が行われている。

毎回の参加者人数は 5-6 名程度の参加であった。5-6 名という少人数ではあるが、直す時間や話しながら進めていく中で、この人数が限界である。参加者等の声として、次のようなものがある。

- ・壊れたおもちゃが直って、本当に嬉しい
- ・依頼して、電球の交換にきっていただけて大変助かる
- ・子どもが好きなおもちゃが直って本当にありがたい
- ・家の電化製品など直してもらえることが本当にありがたく、頼みやすくなった
- ・顔が見えるから行きやすくなった
- ・リピーターの方で、直してほしいものはないが、お医者さんや住民の方と話をするために、あえて古いものをお持ちになる方も見える（自治会からの話）

結果として、参加者の心境の変化としては、上記の回答から、活動に対する参加について敷居が低くなり、サロン活動に対する意識として一定の効果が出てきたのではないかと考えている。

この活動の交流機会については、説明の会話や集会場におられる方との会話から、様々な交流につながっているのではないかといえる。特に、「直すものはないが、会話をするためにあえて古いものを持ってこられる」という方は、本当に「お話」がしたいということでみえているということで、効果につながってきているのではないかといえる。閉じこもりの防止やコミュニティーの構築を進めてきた中で、良い方向に進んできているのではないかと考えている。

本研究の活動を踏まえ、2 点ほど課題として考えている。1 点目として、この活動をきっかけに様々な活動への参加推進である。現状では、おもちゃと電気のお医者さんのみの参加の方が多いが、月に 1-2 回程度なので、いろいろと活動に参加してもらえればと考えている。無理にではなく、いろいろなジャンルの中から好きなものを選んでもらえるように進めていくことができればと考えている。2 点目として、今までかわりのなかった方に対しても周知することである。現行の活動において、やはり新規の参加者をたくさん募るのは難しいといえる。そのため、なかなか関わりにくいという話もいまだにある。このことから、世代の幅を広げつつ、新規の子どもたち等の参加をきっかけに、保護者の方にもかかわってもらい、サロン活動や交流活動について興味を持ってもらえる様に進めていきたい。

今後、多世代の交流を大切に、より住民の関係の充実を目指していきたい。